

Immunohistochemical Study of Epidermal Growth Factor and Epidermal Growth Factor Receptor in Gastric Carcinoma

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/14880

学位授与番号	医博甲第994号
学位授与年月日	平成3年3月31日
氏名	杉山和夫
学位論文題目	Immunohistochemical Study of Epidermal Growth Factor and Epidermal Growth Factor Receptor in Gastric Carcinoma (胃癌における上皮増殖因子と上皮増殖因子リセプターの免疫組織化学的検討)
論文審査委員	主査 教授 中西 功夫 副査 教授 磨伊 正義 教授 中沼 安二

内容の要旨および審査の結果の要旨

Epidermal Growth Factor (EGF)はそのリセプターである Epidermal Growth Factor Receptor (EGFR) に結合して細胞の増殖を促す代表的増殖因子である。癌細胞においては自ら産生する増殖因子を受容して増殖するという autocrine 機能を保有している可能性が指摘されている。今回、癌細胞のこのような働きを解明するために胃癌 222 症例について免疫組織化学的に胃癌組織中の EGF および EGFR の発現の有無を調べ、病理組織像との比較検討を行った。

免疫組織化学的染色の後、すべての胃癌を EGF と EGFR の染色性の有無によって以下の 3 群に分類した。すなわち、1 群：EGF 及び EGFR とともに陰性の胃癌、2 群：EGF または EGFR 一方のみが陽性の胃癌、3 群：EGF 及び EGFR とともに陽性の胃癌。これらの各群と胃癌組織像との比較検討を行った結果は以下の如く要約される。

- 1) EGF 陽性率は 29%、EGFR 陽性率は 32% であった。222 例中 1 群は 123 例 (55%)、2 群は 64 例 (29%)、3 群は 35 例 (16%) であった。
- 2) 145 例の進行癌の肉眼型においては、Borrmann 3、4 型の浸潤型の割合が 1 群、2 群に比べて 3 群で有意に高率であった ($P < 0.01$)。
- 3) 病理組織学的な浸潤型 (INFr に相当) の割合は 1 群、2 群に比べて 3 群で有意に高率であった ($P < 0.01$)。
- 4) 組織型を分化型と低分化型に分けて比較すると低分化型の割合が 1 群、2 群に比べて 3 群で有意に高率であった ($P < 0.01$)。
- 5) 間質の豊富な硬性型の占める割合は 1 群、2 群に比べて 3 群で有意に高率であった ($P < 0.01$)。
- 6) 粘膜内癌の割合は 1 群に比べて 3 群で有意に少なかった ($P < 0.05$)。一方、漿膜を越えて深達した胃癌の割合は 1 群、2 群に比べて 3 群で有意に高率であった ($P < 0.05$)。
- 7) 転移形式との関係を見ると、1 群、2 群に比べて 3 群で腹膜播腫、リンパ節転移が多い傾向が認められた。

以上、本研究は EGF 及び EGFR 抗体の両者に反応して autocrine 活性の可能性を有する胃癌が存在することを示すとともに、このような胃癌は病理組織学的には悪性度の高いものであることを明らかにしたものであり、悪性度の判定さらには癌の生物学的態度を解明する上で有用なデータを提供した労作であると評価された。